



ハ〜イ!

青いそら

<病院理念> 患者さん中心の人にやさしい良質の医療を提供します。

ホームページはこちら



薬剤部特集

今号の内容

● 薬剤部特集

薬剤師の仕事・・・2

がん専門薬剤師・・・4

● リハビリ通信～転倒予防の“ぬかづけ”～・・・7

● 上級医療情報技師・・・8

● 看護の日/LTFU 外来・・・9

● 診療のご案内・・・10

● 栄養メニュー／地域連携室だより・・・12



～薬剤師の仕事～ がん専門薬剤師



中国中央病院の薬剤部

“病院薬剤師”とは、どのような仕事をしているのかイメージがあるでしょうか？

きっとすぐに思い浮かぶ薬剤師といえば、病院の前にある保険薬局で薬を調剤する薬剤師や、ドラッグストアで薬を選んでくれる薬剤師をイメージされる方が多いと思います。

現在、当院には 18 名の薬剤師が在籍しています。薬剤師はそれぞれ、**セントラル部門**、**病棟部門**、**医薬品情報管理部門**、**治験部門**に分かれて日々業務を行っています。

私たち病院薬剤師の仕事は、みなさんのイメージする薬剤師とは少し違うかもしれませんが、有効で安全な医療を提供するためにチーム医療の一員として非常に重要な役割を担っています。

今号では、そんな病院薬剤師の仕事についてご紹介したいと思います。

1. セントラル業務

患者さんの内服薬・外用剤・注射薬の調剤を行っています。当院では、外来患者さんは院外処方箋ですので、主に入院患者さんのお薬を取り扱っています。

医師の指示に基づいて、その用法・用量や飲み合わせを確認し、お薬を調剤します。

また、院外処方箋についても同様に処方内容の確認を行い、院外の保険薬局からの問合せについては、医師との連携を図りながら、お答えしています。



2. 病棟業務



各病棟に病棟薬剤師を配置し、入院患者さんに対して**服薬指導**(薬剤管理指導)を行っています。

入院患者さんが、自分の病気についてよく理解し、正しい知識を持って治療を受けていただくために、患者さんのベッドサイドへ伺い、内服薬、外用薬、注射薬の説明、自己注射・吸入薬の手技指導や薬の効果、副作用、飲み合わせのチェックなどを行います。

医師・看護師と協議し、患者さんが安心、安全な医療が受けられるよう努めています。



3. 医薬品情報業務

医薬品情報業務は、医薬品に関する情報を収集・管理して、医療スタッフや患者さんに情報提供したり、質問に応じたりする業務です。

医療事故防止の観点から、常に最新の医薬品情報を収集して各職種に対応できるように努めています。



4. 治験関連業務

新しい「くすり」を開発するにあたり、人を対象とした試験の中で、医薬品の承認申請を目的とする試験を治験といいます。その治験が、適切かつ安全に行われるよう治験薬の管理、調剤、注射剤の調製などの業務を行っています。



チーム医療

チーム医療は、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士など医療スタッフが互いの専門性を尊重し、最大限の能力を引き出し合うことによって最善の治療をおこなう医療現場の取り組みです。

薬剤師も感染管理チーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、栄養管理などのチーム医療の一員としてよりよい医療の提供ができるように積極的に取り組んでいます。



このように、病院薬剤師は院内でさまざまな役割を担っています。患者さんとお会いするのは外来担当の薬剤師や病棟担当の薬剤師ですが、有効で安全な治療を受けていただくために、見えないところでサポートしていることをお分かりいただけますと幸いです。



中国中央病院薬剤部では、チーム医療の中で、より専門性を発揮するための能力向上を目指し、認定・専門薬剤師の取得に積極的に取り組んでいます。

今回は専門性を持った薬剤師の例として、がん専門薬剤師をご紹介します。

薬剤師の専門・認定資格

現在、私たち薬剤師においては様々な領域に関する専門・認定資格制度があります。

認定制度は、薬物療法全般に関わる資格をはじめ、がん、感染症、緩和医療、糖尿病診療、腎臓療法、栄養療法、漢方薬、精神科領域、妊婦・授乳婦関連やHIV診療など非常に多岐に渡っており、各自が専門領域に関する知識を身につけ、その力を発揮しています。

当院薬剤師の有する資格

- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
- ・日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士
- ・日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療養士
- ・日本薬剤師会研修センター 漢方薬・生薬認定薬剤師
- ・日本薬剤師会研修センター 認定実務実習指導薬剤師



がん専門薬剤師とは

日本医療薬学会(一般社団法人)が認定する資格です。

がん領域の薬物療法等に一定水準以上の実力を有し、医療現場において活躍しうる「がん専門薬剤師」を養成する目的で、2009年11月に認定制度を発足しました。

この制度は、高度化するがん医療の進歩に伴い、薬物療法が非常に幅広くなったことから、薬剤師の専門性を活かした、より良質かつ安全な医療を提供するという社会的要請に応えるため、高度な知識・技術と臨床経験を備える薬剤師を養成し、国民の医療・健康・福祉に貢献することを目的とされています。

2022年1月時点で、全国で731名、広島県で22名認定されています。

当院では、石井一也、神原康佑の2名の薬剤師がこの資格を取得しております。



神原薬剤師と石井薬剤師



がん治療に関わる薬剤師の役割

① 化学療法に関する院内体制の整備

まず、私たちはがん専門薬剤師として院内のがん化学療法レジメンの登録に携わっています。では化学療法レジメンって何でしょう？

化学療法レジメンとは、**がん薬物治療における薬剤の種類や量、期間、手順などを時系列で示した計画**のことをいいます。

がんの薬物治療では、抗がん剤や輸液、また抗がん剤の副作用を抑えるための支持療法(吐き気止めなどの投与)の種類・投与量や投与方法、投与順、投与日などがレジメン毎に細かく決められています。

がん治療の安全性を確保し、適正ながん薬物療法を実施するためレジメンの管理は非常に重要です。

当院では**エビデンス(証拠)**に基づいた治療を心がけています。院内で実施するすべての抗がん剤治療について院内登録制としています。

世の中で効果が実証された治療をみなさまへお届けするために、私たちはレジメン登録を進める上でも、様々なガイドラインや臨床試験の結果をもとにレジメンを構築し、医師・看護師などの他職種と情報を共有しながら、患者さんに薬物療法をお届けするサポートを実践しています。

② 患者さんとの関わり

次に、薬剤師による患者さんとの関わりについてご紹介します。

ミキシング(薬の調製作業)

まず当院では、点滴の抗がん剤は 365 日、すべての薬において薬剤師が**調製作業**(お薬を混ぜること、以下**ミキシング**とします)を実施しています。今回はミキシングの様子を少しのぞいてみましょう！

あらかじめ医師がレジメンを用いて入力した処方に基づき、薬剤部では前日にお薬を取りそろえて準備しておきます。しかし、この時点ではまだお薬のミキシングは行いません。

ミキシング作業は、**点滴当日**に医師の最終指示を確認した後に行います。抗がん剤をミキシングする際、薬剤師は抗がん剤の曝露を避けるため、写真①のような装備で、また写真②のような場所で作業を実施しています。



① ミキシング(調製作業)の装備



② ミキシング(調製作業)

実はこの装備、夏場は結構暑いです(笑)

各薬剤の決められた手順に従い、各患者さんの投与量に合わせてミキシングを実施し、必ず薬剤師 2 名でダブルチェックを行います。

そのようにして完成した薬剤は、投与場所へ搬送され、看護師の手で安全に投与されています。



患者さんとの面談

現在、病棟は石井、外来を神原が担当しています。
当院の特徴としては、**がんサポート薬剤師外来**を設けていることです。

外来受診時に、採血から医師の診察までの待ち時間を利用して、患者さんと面談し、服薬状況や副作用の有無を確認します。

医師による外来診察時間は限られていますが、事前に薬剤師と面談することで、みなさまの体調変化を漏らすことなく、必要な対策を講じるためのサポートをさせていただいています。

患者さんは「入院→外来」、もしくは「外来→入院」と治療の場を変えながら頑張っておられます。時には場所が変わり、担当薬剤師が変わることもありますが、継続的な関わりが実行出来るように、私たちは相互に情報共有を行っております。

そのような中で、私たち薬剤師が患者さんと面談することで、その患者さんの治療において注意すべき副作用について聞き取りを行うことが出来ています。



がん化学療法においては、副作用を経験する場面も非常に多いため、しっかりと聞き取りを行いながら、その症状に対する対処を考え、処方設計を実行します。

薬剤師から医師へ情報提供し、対処療法を提案し、副作用を軽減させることが出来るように努めています。

治療を受けておられるみなさま、どんなことでも構いませんので、気になる症状がありましたら担当の薬剤師にお伝えくださいね。

③ 後輩薬剤師の育成

がん専門薬剤師 2 名のみですべてのがん患者さんのサポートが出来るわけではありません。

しかし、薬剤部には優秀な後輩たちがたくさんいます。私たちが学んだこと、経験したことを後輩にも伝えながら、みんなが同じレベルで患者さんのために業務を遂行することを目標としています。



優秀な後輩たち

若手も多くなりますが、当院すべての薬剤師が私たちががん専門薬剤師の指導済みですので安心してお任せいただけて大丈夫です！

「患者さん中心の、人にやさしい、
良質の医療を提供します」

この病院理念を達成すべく、私たちはこれからも情熱と責任感を持ち、みなさまのがん治療を支えるため精進いたします。



～身近に潜む転倒のリスク～

転倒リスクが高い場所として、日本転倒予防学会が掲げている語呂合わせでぬかづけというものがあります。「濡（ぬ）れた場所」、「階段（かいだん）」、「かたづけ」からとってぬかづけです。

このような場所は、高齢者の方のみならず健康な若年層の方でも転倒するリスクが高いため注意が必要です。

濡れた場所

お風呂場とキッチンなどが濡れた場所になります。

お風呂場は、濡れているうえに石鹸の泡などが残っていることもあるため、転倒する可能性がさらに高まります。

階段・段差

高齢者の方は、小さな段差にも気を付けながら生活していく必要があります。

階段のような大きな段差だけでなく、敷居やカーペットなどの小さな段差に足がつかずいて転倒してしまうケースも多くあります。

かたづけ

片付けが出来ていないと転倒するリスクが高まります。

大きな荷物はもちろん、書類などの紙が床に置かれていれば、滑ったりすることがあるかもしれません。普段から整理整頓をすることは転倒を予防することにもつながります。

～転倒予防体操のご紹介～

つま先上げの運動

つま先を上げる筋肉を鍛えることができ、歩くときにつま先が下がりにくくなります。椅子に座ったままでもできます。

かかと 踵 上げの運動

この運動で使う筋肉は、立ったときのバランスを保つために重要な筋肉です。バランスを崩しそうな方は、軽く机や椅子の背もたれに手を添えて行いましょう。

ハーフスクワット

しっかりと膝を伸ばすために必要な太ももの前の筋肉を鍛えます。ゆっくりと膝を曲げて、ゆっくりと伸ばします。この筋肉が弱ってしまうと、転倒しやすくなるという報告もあります。



- ★膝や股関節など関節に痛みがある人は無理をしないようにしましょう。
- ★これらの運動は1日10回ずつを目安に、週3日ほどのペースから始めてみましょう。

システム管理系の業務

システム管理系では、電子カルテを中心とする統合情報システムの運用や、ネットワークの保守・管理、地域連携システムの構築・運用、情報セキュリティの維持・向上、システムに関する企画・導入支援等を行っています。

その他、開発業務や院内スタッフからのヘルプデスクとして、3名体制で対応しています。

昔は、システムを導入する際、院内スタッフとシステム業者との橋渡しを行い（いわば通訳のような役割）、導入後に大きなトラブルを発生させないようにする事がメインでした。

しかし近年では、蓄積された情報から有用な情報を引き出し、医療の安全・質の向上・効率化を図り、保険・医療・福祉の情報化の推進を総括的に担う業務へと変化しています。

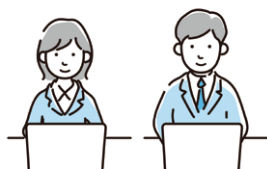


Web会議の様子



第15回上級医療情報技師能力検定試験に合格しました

私はこの度、第15回上級医療情報技師能力検定試験に合格しました。今回の合格率は15.1%（132名受験で20名合格）でした。現在、広島県では13名しかいません。また、5年毎の更新制のため能力の向上・専門性を高め、維持する事が必要です。



医療分野のIT化は急速に進み、AIとIoTを組み合わせた新たなテクノロジーに注目が集まっています。

上級医療情報技師として、病院の経営戦略と現場の要求を考慮した情報戦略を立案し、質の高いデータ集積環境を提供していきます。また、データの分析や、プロジェクト管理・チーム間のマネジメントを行うことができる後進育成にも努めたいと思います。

今後も、新技術の動向を鑑み、他施設と積極的に情報交換を行い、24時間365日システムの安定稼働と診療の円滑な運用をサポートする「縁の下の力持ち」として活動してまいります。



認定証書

上級医療情報技師とは



日本医療情報学会では、「保健医療福祉の質と安全の向上のために、幅広い知識と豊かな経験を背景として、全体最適の観点から保健医療福祉分野の情報化と医療情報の利活用を総括的に推進できる」人材と定義されています。

3C (Communication, Collaboration, Coordination) の資質に加えて、リーダーシップとマネジメント力を発揮し、医療現場の課題を論理的な思考に基づいて解決できる実践的な能力を修得していると認められます。



看護の日によせて

5月12日は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、看護の日に制定されています。当院でも毎年、患者さんやご家族を招いて、イベントを開催していますが、新型コロナの影響で今年も中止を余儀なくされました。それでも、少しでも患者さんに看護の心や元気を届けたいと、看護師一人一人がメッセージを書きました。各病棟工夫を凝らし、すてきな作品に仕上がりました。また、患者さんより医療従事者に向けたメッセージや温かいお言葉をたくさんいただきました。

来年度は、コロナが収束し、直接笑顔が交わせるイベントが開催できることを願っています。（文責 外来 高橋紀子）

2022年4月開設！

造血幹細胞移植後長期フォローアップ (LTFU) 外来 Long Term Follow Up

4南病棟では悪性リンパ腫や白血病など血液疾患で入院された患者さんに対し、化学療法、放射線療法、輸血療法や移植などさまざまな治療を行っています。その中で造血幹細胞移植を受けた患者さんが移植後も安心して過ごすことができるよう、2022年4月から造血幹細胞移植後長期フォローアップ外来（以下：LTFU 外来）を開設しました。

LTFU 外来では、日本造血細胞移植学会で研修を受けた看護師が全身状態や日常生活の活動状態、慢性 GVHD のスクリーニング評価を行い、それらの情報を医師の診察へ繋げます。

更に、薬剤師や栄養士など多職種と連携を図りながら、移植後の経過期間に応じて、感染予防、GVHD 予防、二次がんなどに対する生活指導または社会生活へのサポートをさせていただきます。

受診された患者さんからは、「今までどこに相談したらよいか分からなかったけど話せて良かった」、「話が聞けて楽になった」といったお声をいただいています。

今後も、移植後の生活がよりよいものになるように継続的に支援していきたいと考えています。

ご希望の方は、お気軽に医師の診察時にご相談ください。



対象：移植後 100 日、6 か月、1 年、以後 1 年ごとの患者さん
日時：（予約制）毎月第 1・3 水曜日 13:00~16:00



アジのエスカビッシュ

〈栄養量(1人分)〉

エネルギー	290kcal
たんぱく質	13.5g
脂質	13.0g
食塩相当量	0.45g



材料 (2人分)

アジ(三枚におろしたもの)	120g	A	水	100cc
小麦粉	少々		白ワイン(酒)	50cc
塩・胡椒	少々		酢	30cc
オリーブオイル	適量		砂糖	15g
玉ねぎ	1/4玉		にんにく	1/4片
人参	1/4本		鷹の爪(種をとる)	お好みで
レモン	1/2個			
ピーマン	1/2個			

作り方

- ① 玉ねぎ、ピーマン、レモンはスライス。人参は千切りにする。
- ② アジを食べやすいサイズに切り、塩・胡椒をして、小麦粉をまぶし、オリーブオイルで揚げ焼きにする。
- ③ 切った野菜と A を鍋に入れ火にかける。
- ④ ②の揚げ焼きにしたアジをバットに入れ、③の野菜に火が通ったら、熱いうちに上からかけて、レモンをのせ、漬け込む。

★温かいままでも、冷やしてもおいしいです。

★お肉やサバ、キノコなどの食材でもできるので、試してみてください！



エスカビッシュは、地中海料理の一種で、南蛮漬けのような料理です。

野菜は、食物繊維やビタミンを多く含みます。

オリーブオイルには、血中の中性脂肪やコレステロールを下げる働きがあり、肥満や生活習慣病の改善にも良いとされています。

また、レモンに含まれるクエン酸には、疲労物質である乳酸をエネルギーに変える働きがあります。

レモンや酢の酸味で塩分を控え、さっぱりした味付けは暑い夏におすすめです。

レシピ：調理師 江草 友秋 文責：栄養士 渡邊友菜

地域連携室だより Vol. 21

令和4年度青い空の会中止のお知らせ

真夏の候、皆様方におかれましては益々ご清栄のことと存じます。平素より当院の診療業務に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、中国中央病院では例年秋頃、地域連携の充実を図るため「中国中央病院 青い空の会」を開催しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度も開催を中止させていただくことといたしました。地域の医療機関の先生、地域連携室の方々にお目にかかれず大変残念ではありますが、何卒ご理解ください。

引き続き、地域の医療機関の皆さまのお力になれるよう努力をして参る所存です。今後とも変わらぬご厚誼の程、宜しく願い申し上げます。

お問い合わせ先：公立学校共済組合中国中央病院 地域連携室

TEL：084-970-2284 FAX：084-970-2234

編集後記

梅雨が明け、夏本番ですね。夏の予定は立てていらっしゃるでしょうか？
コロナ禍以前のように夏の催しが開催されつつあります。
感染対策、熱中症対策をしながら楽しい夏を過ごしましょう。

青いそら〈第149号〉

発行 広島県福山市御幸町大字上岩成148-13
公立学校共済組合中国中央病院
TEL.084-970-2121(代) FAX.084-972-8843

発行人 病院長 玄馬 顕一
令和4年7月22日発行

<http://www.kouritu-cch.jp>

編集：広報委員会 安藤由智、田野智之、荒木恒太、尾形佳子、村上直治、大塚謙、西井育子、栗村朋香、三上真宏、三輪とも美、藤井恭子、小坂麻依、三浦美保、後藤 大、森川 薫

